

避難と備え

災害の発生が差し迫り、避難が必要になった場合には、避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告、避難指示が発令されます。

―避難とは―

避難とは、「避難」を「避」けることです。避難を避けるため安全なところに移動するのは、災害発生時には大変重要なことです。

ただし、避難の仕方は一通りではありません。発生時の状況や周囲の環境などにより避難方法を考え、それに応じて変えることも必要です。

―避難判断と行動例―

基本的に、避難の時期・方法は個人で判断する必要がありますが、例えば次のような場合が考えられます。

- ・浸水・土砂災害の危険がある地域に居住している。
- ・乳幼児や高齢者と居住している。



水平避難（一般的な避難方法。安全な場所に避難すること）で、とにかく早く避難しましょう。

―命をまもるために―

- ・ひざ上まで浸水（50センチ以上）。
- ・浸水は浅いが、流れが速かったり危険箇所がわかりにくい。

―避難する際の注意点―

垂直避難（建物倒壊のおそれなどがなければ、自宅や近隣建物の2階以上に避難すること）で、一時的に避難し、救助を待つことも検討しましょう。

―避難する際の注意点―

避難の際には、次の点に注意しましょう。

- ① **足元に注意し**、子どもや高齢者から目を離さず、手を引くなどの手助けをしましょう。集団行動を心がけましょう。
- ② 歩ける深さは男性で約70センチ、女性で約60センチが目安です。水深があるようなら無理に避難せず高所で救援を待つなどしましょう。
- ③ 災害時の**車の避難は、大変危険です**。徒歩で避難しましょう。
- ④ 素足・長靴は禁物。特に長靴は、**水や泥が入ると動きづらくなり、大変危険です**。ひもでしめられる運動靴で移動しましょう。

家庭でできる

備えをチェック

災害時には、避難するとき、そして避難した後にも必要となるものがあります。

今回は、家庭でも比較的簡単に用意できる

次の3つのパックを参考に、家庭での備えを見直してみましょう。



常時携行パック

バッグの片隅に

持っていたい物

- 水やお茶
- 帰宅地図
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 携帯食糧
- タオル
- 雨具

まくら元パック

就寝時に

まくら元に用意します

- スリッパ
- 懐中電灯
- ホイッスル

常時備蓄品パック

平常時から

備えておきましょう

- 水と食糧
- ラジオ・懐中電灯
- 予備電池
- ポリタンク
- 貴重品